

災害に強いまち

を目指して

行政の重要な役目は、日ごろからの防災、減災への取り組み。「公助には限界がある」と言われているように、災害が大規模、広範囲になればなるほど「公助の限界」は浮き彫りになると予想される。災害を対岸の火事と思わずに私たち一人ひとりが防災を意識し、準備しておく大切さについて考えたい。



総務課危機対策・放射能対策室 高根沢 寿夫 室長

や地域の人など389人が防災士となり、今後の活躍が期待されることです。

当時は、経験したことのない規模の災害で、経験や知識が乏しく避難所の運営に苦慮した記憶があります。登庁まで半日以上かかった職員もいましたし、私も市役所に泊まり、土のうもたくさん作りました。災害の経験を生かし、市では「災害に強いまち」を目指して、自主防災組織の結成推進、避難所の整備、防災士の育成などを行っています。この防災士養成事業により、市職員

しかし、先日起きた「西日本豪雨」では119番通報したが「救助に行けるのは10時間後です」と言われた」と話題になったように、至るところで同時多発的な被害が発生する災害の場合、市役所、消防、警察の活動にはどうしても限界があります。よく耳にする言葉ですが、災害はいつでもどこで起きるか分かりません。本市は水害のほか、土砂災害や火山災害も想定されますし、旅先で被災した場合は、都会で、海で、それぞれに対応した知識が必要となります。市民の皆さんも明日はわが身として意識し、自分を、家族を、地域を守るため、防災に関する知識と災害に対する準備をお願いします。

日頃の備え

災害発生直後は、市役所や消防、警察などの公的機関による救助が十分に機能しないことがあるため、自分の身は自分で守ることを意識し、各家庭でも万が一に備えましょう。

これだけは
備えておきましょう



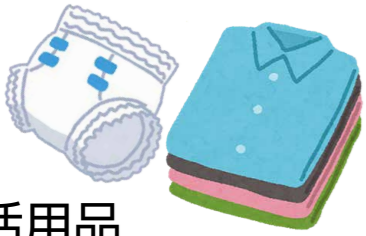
応急医薬品

ばんそうこう、包帯、消毒液など。避難するときなどにけがをした場合、すぐ手当てができるよう、応急医薬品を備蓄しましょう。



非常食

調理不要な缶詰やレトルト食品、飲料水など。飲料水は大人1人で1日に3ℓ必要です。非常食は、3日分程度備蓄しておきましょう。



生活用品

衣類、毛布、生理用品、紙おむつなど。避難所では下着や衣類が不足しがちです。また、支援物資なども配布しますが生理用品を受け取りづらいなどの意見をよく聞きます。

その他

ラジオ、懐中電灯、軍手など。ラジオは電波によって情報を発信するため災害に強く、情報を手に入れるために重要です。



CHECK!

もしもの時を想定し、
災害に備えよう！

①家の中の危険な場所、安全な場所を確認しておこう！

避難が遅れ、避難所へ避難できないときは、家の中の比較的安全な場所、例えば、大雨のときは2階の部屋や崖から遠い部屋などに避難することが大切です。

②家族同士の安否確認方法を決めておこう！

別々の場所にいるとき災害が発生した場合でもお互いの安否が確認できるよう、安否確認の方法や集合場所などを、日ごろから話し合っておきましょう。災害時には携帯電話の回線がつながりにくくなり、連絡が取れない場合もあります。その際は、災害用伝言ダイヤル(171)や、災害用伝言板を利用して安否確認をしましょう。



那須塩原市メール配信サービス みるメールの登録を！

防犯・災害情報や生活に関する地域情報などを迅速かつタイムリーに届ける「みるメール」。近年の大雨による水害や地震など生命を脅かす災害に対応するため、最上位カテゴリに「命を守る情報」を新設しました。「命を守る情報」では災害時の避難勧告・指示や、避難所の開設状況などがリアルタイムで送信されます。いざというとき、あなたの身を守るのはこのメールかもしれません。



携帯電話ページ用

▶問い合わせ
☎シティプロモーション課 ☎0287(62)7529

災害に強いまちを目指して 総合防災訓練を行います

市全体で防災意識を高め、市民、防災関係機関と市が、それぞれの役割分担や行動内容などを確認することに重点を置き、那須水害と同規模の大雨による災害想定をして各種訓練を実施します(見学可)。

▶とき 8月26日(日) 午前10時～午後0時30分
▶ところ 那珂川河畔運動公園

《追悼式を行います》

那須水害から20年が経過し、改めて哀悼の意を表し、さらなる防災意識の高揚を図るため追悼式を行います。

▶とき 8月26日(日) 午前9時～9時30分
▶ところ 那珂川河畔公園 石のステージ

▶問い合わせ ☎総務課 ☎0287(62)7150



近年の主な災害

東日本大震災

(平成23年3月11日)

マグニチュード9.0、震源域も広範囲にわたった「東北地方太平洋沖地震」は観測史上最大規模の地震であった。この地震により、東北地方沿岸を中心に大津波が発生。壊滅的な被害を受けたほか、大量の放射性物質の漏えいを伴う大規模な原子力事故が発生し、広範囲で深刻な放射能汚染を引き起こすなど、未曾有の大災害となった。本市でも最大震度6弱を観測。負傷者5人の人的被害、全壊24棟をはじめとする1600棟を超える家屋などに被害が生じた。また、原発事故により拡散された放射性物質の被害は、除染作業が必要となっただけでなく、風評被害による観光客の減少、林産物の出荷制限など大きな影響を受けた。



物品が散乱した寺子小学校

平成26年豪雪(平成26年2月15日)

発達した低気圧による大雪、暴風雪により関東甲信、東北、北海道に被害をもたらした豪雪。



大雪により倒壊した農業用施設

平成27年9月関東・東北豪雨 (平成27年9月9日～11日)

栃木県全域に大雨特別警報が発令されるなど、関東北部や東北部を中心とした記録的な大雨。本市では特に塩原地区において大雨となり、ダムからの放水も重なって、川の水位が上昇し、塩原・箒根地区全域に避難勧告を発令。最大で81人が避難所に避難した。この大雨で、土石流や地滑り、土砂崩れなどの土砂災害が発生したほか、住家の半壊や浸水被害、断水や停電が発生し、市民生活にも大きな影響を与えた。



土砂崩れにより樹木が道をふさぐ塩原地区の様子